

私はますますノメリガサ

中川 憲

はり・きゅうを始めたころ、古い友人たちから眼でも悪くしたのか、と電話をもらった。こんどキノコをはじめたら、家へ持ってこないでね、と言われる始末。釣、スケート、ハーモニカ、ギター、船、アマチュア無線、山岳の趣味も、行きつくところはどうか



自慢のきのこグッズを抱き一人悦に入る？

やらキノコ。この世界にはまったようだ。

ある日、山小屋にたどりつくまでにたくさんキノコに出会った。明日また、この道を通るので一つ二つ持参して山小屋の主に聞いたところ、クリタケで食べられるよとの返事だった。翌朝、クリタケ、ナメコ、ブナハリタケをザックに詰め、山をおりた。これがキノコ狂詩曲の始まりらしい。

毎朝6時に家を出て8時に帰る散策を続けて6年有余になる。仕事柄この時間以外に散策に出ることはまれである。歩く人数は10人を超えるときもあるが、いつもは6人ぐらいのことが多い。この中に、ご婦人が2人おり、このことが6年も続いている原因かもしれない。このメンバーが山屋さんで、か

つては一緒に北・南アルプスや朝日岳を登った仲間だ。最近はキノコにノメリこんだため、お誘いがなくなったが、年に二山は登山を実行している。最近、人生も晩年期を迎え、考えることが多い。森林限界内できれいな空気を胸いっぱい吸って、森林浴とマイナスイオン

を全身に浴びながらキノコを採るほうがどんなに余の為、人の為、はたまた健康作りそのものではないかと思う。

毎朝の散歩コースには雑木林、畑、田んぼ、川、神社、池があり逆コースですれ違う組も顔なじみになり、追い越す超早歩き組みもいて散策コースは銀座通りそのものだ。コースのなかには加曽利貝塚、小倉林道があり、キノコ屋さんがだれも入っていないので一年間の自家製キノコブックができちゃった。天気や気温をこまめに記し、定点観測地点に行くと季節のキノコにめぐりあえる。最近オリンパスの顕微鏡を入手し、ますますノメリガサになっちゃった。